



キックオフシンポジウム

森林・農業・水資源をつなぎ、レジリエントな
地域モデルを共創する

レジリエント・バイオ地域モデル拠点 ReBio-HUB

日時：2026年6月16日（火）13:00-15:00(要事前登録)
意見交換会：15:00-16:00

会場：名古屋大学 野依記念学術交流館（2階ホール）

主催：東海国立大学機構連携拠点 ReBio-HUB
共催：名古屋大学生命農学研究科、岐阜大学応用生物科学部
後援：東海バイオコミュニティ対象：大学・研究機関、行政、自治体、企業、関係団体、
学生など

開催趣旨

東海国立大学機構のもと、名古屋大学と岐阜大学が連携して推進するReBio-HUBの始動にあたり、その理念、研究基盤、社会実装の方向性を広く共有することを目的として開催します。本拠点は、森林・農業・水資源を統合的に捉え、流域という実体空間を基盤として、気候変動、地域資源管理、農林業の持続性、災害リスクなどの複合的課題に対応する新たな地域モデルの構築を目指します。行政、企業、大学の視点を交えながら、東海地域から発信するポストSDGs時代の地域モデルと、その実現に向けた大学連携の可能性を議論します。

プログラム

第一部



気候変動適応とポストSDGs型地域モデルへ向けた取組

13:00-13:05	開会挨拶・趣旨説明	五味高志（拠点長／名古屋大学）
13:05-13:15	「農学系連携の戦略的意義」	松尾清一（東海国立大学機構長）
13:15-13:20	拠点のねらい「流域レジリエンス科学の統合設計」	五味高志
13:20-13:40	基調講演Ⅰ「これからのレジリエンス社会における森林の役割」	小坂善太郎（林野庁長官）
13:40-14:00	基調講演Ⅱ「水がつなぐ地域社会の森林・農業・人」	川崎雅俊（サントリーWater Scape株式会社 代表取締役社長）
14:00-14:20	基調講演Ⅲ「東海地域における農政課題と地域連携の展望（仮）」	松下茜（東海農政局 企画調整室長）
14:20-14:30	休憩	

第二部



気候変動適応とポストSDGs型地域モデルにおける研究と人材育成

14:30-14:35	名大・岐阜大連携の意義「研究基盤強化・人材育成の観点から」	中園幹生 (名古屋大学生命農学研究科 研究科長)
14:35-14:55	意見交換 進行：山田邦夫（副拠点長／岐阜大学） 話題提供：山田邦夫「気候変動適応センターの取り組みと今後の発展」 コメンテーター：大西健夫（岐阜大学）、井坂友美（名古屋大学）	
14:55-15:00	まとめ・閉会挨拶	西津貴久 (岐阜大学応用生物科学部 学部長)

意見交換会
・交流会

会場：1階ラウンジ

15:00-16:00 コーヒータイム形式の意見交換会を開催します。
企業ポスター展示、来訪企業・行政・大学関係者との交流を予定しています。
産学官連携や共同研究、地域実装に向けた対話の場とします。

参加申込

参加者は以下のFormに事前登録をおねがいします。また、ポスター展示希望の方は登録時にお申し込みください。
<https://forms.gle/stAbqTfRcRtwVX3G7>森林・農業・水資源をつなぐ
地域の未来を、科学と共創でひらく